

日本小児科学会小児医療委員会主催

## 第12回小児在宅医療実技講習会報告

開催日時：2018年6月3日

開催場所：千葉県立千葉リハビリテーションセンター 大ホール  
千葉県千葉市緑区譽田町1-45-2

参加費：6,000円（テキスト，昼食代込み）

参加者数：53名（申し込み60名，欠席7名）

主催：公益社団法人 日本小児科学会

後援：日本小児科学会千葉地方会，千葉大学医学部小児病態学，千葉県小児科医会，  
新生児医療連絡会，千葉県，千葉市，千葉県周産期新生児研究会，  
赤ちゃん成育ネットワーク，日本小児在宅医療支援研究会

**概要：**日本小児科学会が毎年実施している小児在宅医療の基礎知識と基本技術の習得を目的とした講習会。今回は千葉県での開催となった。講義と実習人形による実習，人工呼吸器，排痰補助装置などの体験学習に加え，病棟の入園児者のご協力を得て気管切開カニューレ交換と胃ろうボタン交換の実技体験を行った。

**プログラム内容：**

1. プリーフィング：石井光子（千葉リハビリテーションセンター）
2. 開会の挨拶：下条直樹（千葉大学医学部小児病態学教授）
3. 講義1「小児の気管切開管理」：長谷川久弥（東京女子医科大学東医療センター）
4. 講義2「在宅人工呼吸療法の実際」：田邊良（千葉リハビリテーションセンター）
5. 実習1「在宅人工呼吸器」，実習2「気管切開カニューレ交換」
6. 実技研修1（希望者のみ）「病棟で入園児者のカニューレ交換体験」
7. ランチョン動画上映「呼吸リハの実際」「ミキサー食注入」
8. 講義3「小児の在宅酸素療法」：本田隆文（東京女子医科大学八千代医療センター）
9. 講義4「小児の在宅胃ろう管理」：石井光子（千葉リハビリテーションセンター）
10. 実習3「在宅酸素療法」，実習4「胃ろうボタン交換」
11. 講義5「小児在宅医療の現状と課題」：前田浩利（医療法人財団はるたか会）
12. 認定証授与および閉会の挨拶：齋藤伸治（日本小児科学会小児医療委員会前担当理事）
13. 実技研修2（希望者のみ）：病棟で入園児者の胃ろうボタン交換体験

**参加者：**千葉県20名，東京都11名，神奈川県5名，静岡県2名，埼玉県2名，福島県1名，群馬県1名，長野県1名，愛知県2名，岐阜県1名，大阪府1名，奈良県2名，山口県1名，福岡県1名，佐賀県1名，熊本県1名（全員日本小児科学会会員：開業医6名，一般病院勤務医40名，大学病院勤務医7名）。

**スタッフ内訳：**外部講師3名，千葉リハビリテーションセンター11名（医師5名，コメディカル5名，事務1名），千葉大学小児科2名，宮崎大学小児科2名（次期開催地），日本小児科学会小児医療委員会6名（前担当理事1名，担当委員1名，委員2名，事務局2名）。

**アンケート結果：**46名が回答し，主に30-40歳代であった。31名が学会ホームページから講習会の開催を知ったと回答し，全員が内容に満足と回答された。テキストをもう少しわかりやすく作成してほしいとの意見も寄せられたが，全員が本講習会の今後の継続に賛同いただいた。入園児者に対する実技は好評であった。実習時間をもう少し長くとの意見も寄せられた。

**まとめ：**千葉リハビリテーションセンターでは，これまでコメディカルに対する講習会は実施してきたため，そのノウハウは持っていたが，医師向けは初めてであった。前日まで同県で日本小児神経学会が開催されていたため，全国各県から受講者が集まった。同センターのスタッフによる綿密な準備と当日の運営により，成功裏に終えることができた。また，入園児者のべ32名に対する実技研修は，これまでの実技講習会ではなかった同センターならではの企画であり，受講者から好評であった。被験者になっていただいた入園児者の方々に深謝申し上げます。